



# タツピーと ほしのきおく



ひがしくの はらっぱ。  
たまねぎのようせい  
タッピーは しずかに  
ほしを ながめていました。

「とっても きれいだなあ。  
…そういえば そらにしか  
ほしって ないのかな？」

タッピーが かんがえたとき、  
どこかから ふしぎな こえが  
きこえてきました。



どうやら つちのなかから  
きこえている みたい。  
それは とてもきれいな  
こえでした

「おかしな ひとも  
ここで ほしをみていたんだよ」  
「そろそろ おそとに でしょうか…  
ねえ ちょっと ほってみてくれる？」



タッピーが  
つちを ほってみると…

ぴょんっ!



つちの なかから  
きらきらひかる ちいさな ほしが  
とびだしてきました

「ぼくは ホシノコ!  
ほしをさがしているの?  
あんないしてあげる!」

ホシノコが ぴゅうっ と  
くちぶえを ならすと・・・

そらのむこう から  
そらとぶ きかんしゃが  
やってきて

タッピーは なんだか  
わくわくして きました



きかんしゃに のると

まどの そとに

まちのあかりが ゆっくりと

ながれて いきます。

「あっ ながれぼし！」

「あれも ぼくとおなじ ホシノコだよ！

そろそろ つくかな？

おりよう おりよう」



そこは よるのこうえん。

あちこちに うきうき  
するような ほしの  
けはいが します。

「ここは こどもたちの  
えがおの きおくが たくさん。  
ほしは えがおが うれしくて  
まぶしく ひかるんだ」

「そろそろ つぎのばしよに  
あんない するよ  
いそいで いそいで」



きかんしゃは また  
はしりだしました。

まどの そとには  
あかい レンガのたてものと  
ほしが 見えます

ホシノコが  
あれは ずっと まえから  
ここではたらく みんなを  
みまもってくれた ひかり  
なんだよ と  
タッピーに おしえてくれました

「たいへん  
もう よあけまで  
じかんがない  
いそがなくちゃ！」

きかんしゃが  
ひかりよりも はやく はしって  
もくてきちに どうちやく すると

そこには ガラスの ピラミッドが  
ありました



ここには はっきりした  
ほしのかたち は ないけれど  
みんなが つくった ひかり があるよ

うつくしい ひかりに  
タッピーは なんだから  
むねが いっぱいに  
なりました

すると ホシノコは  
ひときわ つよく  
ひかって そらに  
うかびあがりました



タッピーの かんじた  
しあわせの きもち  
あたたかい きもちが  
ぼくの ちからに なったよ



ホシノコ は  
どんどん そらたかく  
まいあがり  
そして・・・

たくさんの ほしや  
ひかりに かわり  
よぞらに ひろがって

まるで それは  
うつくしい  
はなび のよう。

# ぱあっ！



ぼくたち また あおうね！  
また みつけてくれるのを  
まってるから！

そういうと  
ホシノコは  
きえて しまいました





ホシノコから うまれた  
たくさんの ひかりは ゆっくりと  
ひがしくの あちこちに  
ちらばって いきました

こうえんに みちに たてものに。

ホシノコは いまも  
まちのどこかに います

つぎは この  
えほんを よんでいる  
きみが ホシノコ を  
みつけるばんかも  
しれませんね。



## 【あと書き】

この絵本は、地元の学生さんたちが東区を歩き、見つけてくれた「東区の魅力（星）」から生まれました。

普段、当たり前のように通り過ぎていた景色。でも、彼らが撮影してくれた写真の中には、キラキラした光や、温かい時間が溢れていました。

学生さんたちの瑞々しい感性と、この街がずっと大切にしてきた歴史や自然。それらをぎゅっと詰め込んで、ひとつの物語に込めました。

読み終わったあと、あなたの周りにある「東区の星」も、昨日より少し輝いて見えますように。

作成・発行：東区地域振興課 / 企画協力：札幌大谷大学  
※本冊子の製作工程においては、一部生成 AI 技術を活用しています。



## 登場キャラクター紹介



1992年12月に誕生。  
東区に欠かせない存在として、  
世代を超えて親しまれている。



東区の「星」の  
案内人として活躍！



本作でも時折登場。  
頭の上の葉は回転する。

## 「東区の魅力（星）」モチーフ解説



本書発行日時時点で毎年発掘調査が行われている遺跡。まだまだ地下に魅力（星）が眠っているという意味も込め、物語内で「ホシノコ」発掘場所となった。  
遺跡そばの体験学習館では、夏季限定で火起こしなどの縄文体験を楽しむことができる。



赤い機関車は、気軽に農業や自然と親しむことができる体験施設「サッポロさとらんど」の「SLバス」。  
※園内を夏季運行  
※実際には空は飛びません



「つどーむ」は全天候型多目的施設で、屋内アリーナ（人工芝）、ランニングコース、球技場やテニスコートなどを備える、市民の交流拠点。みんなが元気に集まる場所。



住宅街の中にある公園で、星を持つモニュメントがある。コンビネーション遊具や、2.5メートルほどの高さのスキー山もあり、冬にはソリ遊びやスキー遊びができる。



日本で唯一のビール博物館「サッポロビール博物館」。  
北海道遺産にも指定されるレンガ造りの建物で、館内を見学することも可能。



星みたいな5つの花びらの  
お花もどこかに  
登場しているよ！

## ＜モエレ沼公園＞



① **ガラスのピラミッド**  
モエレ沼公園のシンボル。お日さまの光がいっぱい差し込む建物の中には、きれいな景色が広がっていて、のんびり過ごすのにぴったりの場所。



② **モエレビーチ**  
海のない札幌でも、子ども達が遊べるようにつくられた、公園の中の小さな海。ゆるやかな斜面と浅い水が特徴で、小さな子どもたちも安心して遊べる。



③ **北海道芸術花火（旧：モエレ沼芸術花火）**  
広い夜空を舞台にした、音と光の魔法（花火）。  
モエレ沼公園の起伏ある地形を生かして打ち上がる花火は、まるでダンスをしているよう。

